

新しい価値観との出会い

2019年の夏、私は10日間マレーシアのUniversiti Teknikal Malaysia Melakaに留学しました。初めの数日はとにかくカルチャーショックの連続でした。トイレでトイレトペーパーを使わなかったり、白米の食感が日本とは違ったり、思っていたよりも文化の違いに戸惑い不安な気持ちになりました。文化の違いの中で、一番印象に残ったのはモール（ショッピングモール）に行った時のことです。モールの店員さんが、お客さんがいない時にずっとケータイを触っていたことが一番驚きました。日本だったら必ず怒られているけど、マレーシアではオツケーみたいです。バイトしている私としては非常に羨ましい文化だなあと印象に残っています。初めて海外に来た私は想像していたよりも文化の違いに驚き、少し疲れました。そんな時に私を支えてくれたのは留学生生活と一緒に過ごしてくれたUTeMの学生でした。私たちに積極的に話しか



小銭を入れてお願い事をすると叶うと言われている観光スポットにて。



10日間グループワークを一緒にしてくれたリドと。



グループワークを共に頑張ったメンバーと。

Universiti Teknikal Malaysia Melakaに留学して

理工学部 理工学科 2年

矢野 拓 (やのたく)

けてくれ、困ったことがあったときは助けてくれました。私たちが楽しくマレーシアのことを知れるように、授業以外のプログラムを考えてくれました。マレーシアに住んでいるUTeMの学生が連れて行ってくれる場所はどれも楽しく勉強になる場所ばかりでした。UTeMの学生と一緒に歴史館に行った時にはUTeMの学生たちが英語で一生涯懸命マレーシアの歴史について説明してくれました。私たちが必死になって聞きました。日本がかつてマレーシアを植民地としていた歴史をマレーシアの学生から聞くことができました。私たちが、マレーシアでその歴史をUTeMの学生から学び、留学を通してUTeMの学生たちと友達になれたことに私は大きな意味があると思います。第二次世界大戦が終わり、戦争を経験した人たちが少なくなっていく今も第

二次世界大戦があったことは決して忘れられない出来事で、国同士で政治的にうまくいかないことも多くあるけど、戦争を経験していない私たちが大切にすべきことは、自分たちと違う文化を受け入れる心と、自分とは違う国や背景を持つ人の、違う部分や、違う背景、違う歴史に目を向けるのではなく、同じ部分、優しい部分に目を向けることだと思います。私が、マレーシアで体験した様々な体験は驚くものばかりで、同世代の自分の価値観や考え方は違う面を持つUTeMの仲間と過ごした10日間は刺激的な毎日でした。この10日間で得た経験は私の価値観に良い刺激を与えてくれました。このような経験や価値観の変化もマレーシアに行ったからこそ得られたもので、私は今回の留学を終えてもっと世界のいろいろな場所に行ってみたいと思うようになりました。



10日間の留学を終え、大学から修了証をもらった時の1枚。



フィールドアスレチックに行ったときの一枚。UTeMの学生と一緒に。



海が見えるレストランにて。真ん中にあるのが留学を通して特に仲良くなったウォさん。

My Life in Tokushima

徳島大学の キャンパスライフ

生物資源産業学部 生物資源産業学科 3年

Youn Jae Hyung

(ユンジェヒョン) [韓国]



留学生
滞在記

徳島大学での最初の年は自分の可能性を広げた一年でした。留学生として、今自分のしていることが本当に正しいのかと自問しながら、大塚テクノという会社でのインターンシップ、ボランティア活動、地域活性化の活動、スダチの調理方法の研究など、たくさんのことをしました。徳島大学の様々な人たちに助けていただき、いろいろな経験をすることができました。

韓国から来たユン・ジェヒョンといいます。徳島大学の留学生として二年を過ごし、これまでの自分を振り返ってみたいと思います。そして、自分の経験がこれから徳島大学で勉強をする留学生や新入生の皆さんに役に立つたらうれしいです。

二年生から奨学金を受け取ることができるようになり、より多くの時間を有効に使えるようになりました。地域活性の活動などを引き続き行いながら、大学生の悩みなどを二万字の地域密着型オリジナル小説「大学生A」にまとめました。これは一年生のときの経験の結果として出せたものだと思います。A・B・A座(徳島大学の有形浄瑠璃活動団体)、ストーリーの相談にのってくれた同じ学部の友達、天文部、蔵本の友達、徳島大学に入学する新入生、徳島の企業の方々など人間関係も大きく広がりました。自分の所属している生物資源産業学部応用生命科学コースでの活動だけでなく、食料科学コースの研究室の英語論文勉強会、総合科学部のゼミで行われた日韓関係改善のための活動などにも参加



総合科学部 饗場先生のゼミで(筆者:右から2人目)



COMJAのメンバーと一緒に(筆者:右端)



お世話になったキャンパスライフ健康支援センター・総合相談部門の部屋

しました。

徳島大学の教育について考え提案する学生・教職員専門委員会の学生によるワーキンググループ(通称・COMJA)にも所属しています。徳島大学で英語の授業を受けている一年生と二年生約三千人を対象にアンケートを取り、その内容を基に英語学習の提案をするなどの自主的活動を続けています。このように普段はできない幅広い多様な経験と勉強を重ねることができ、徳島大学に入学して良かったと感じています。

この場所、こんな行動をしていいのかといった、留学生にとって難しい日本人との人間関係で悩むことがあります。そんなときは、徳島大学常三島キャンパスにあるキャンパスライフ健康支援センターの総合相談部門に頼ります。簡単に言えない悩みをカウンセラーの先生に相談することで、日本人との関係がよくなり、留学生より日本人の友達がたくさんできるようなりました。

徳島大学での体験や知識を、自分の興味のある臨床系の研究につなげていきます。卒業後は、私を勉強面でも生活面でも助けてくれた徳島に少しでも役に立てるようなことをしたいと希望しています。